

SEMINAR

DIALOG × MONOLU · JOINT SEMINAR

W3 mimosa × W3 Accounting / 物流経営可視化ウェビナー

現場データを、単なる「記録」で終わらせない。

経営に直結する 「利益の見える化」ウェビナー

DATE

2026.06.23 (火)

14:00 — 15:00

VENUE

Zoom Webinar

オンライン配信

HOST

株式会社ダイアログ

主催

CO-HOST

MonoLu株式会社

共催

SPEAKERS

長谷川 諭 Satoshi Hasegawa

株式会社ダイアログ / W3 Business事業部 mimosaチーム

石田 樹 氏 Itsuki Ishida

MonoLu株式会社 / 代表取締役CEO

SEMINAR · PART 1 OF 2

W3 Accounting × W3 mimosa

物流経営可視化セミナー

01

W₃ mimosa W₃ accounting 現場データを 経営の武器に変える。

—— 物流現場のデータが、はじめて経営に届く時代へ

SPEAKER

長谷川 諭 Satoshi Hasegawa

株式会社ダイアログ / W3 Business事業部

Dialog.Inc
Create Stylish Logistics

「現場データを、経営の武器に変える」。
—— このテーマ、もう何年も
語り尽くされてきました。

RECURRING THEMES

物流2024年問題

人手不足

AI活用

DX

データドリブン経営

経営可視化

—— どこかで、聞いたことのある話。

THE POINT

それでも、現場では一向に解けていない。なぜか。

この数年で、 WMSの役割そのものが静かに変わりました。



01

WAVE 01 ・ AI

押し寄せる波

データなき現場に、
AIは来ない。



02

WAVE 02 ・ LABOR

引いていく波

仕組みなき現場は、
もう回らない。



03

WAVE 03 ・ DATA

逃れられない波

数字なき経営は、
もう残れない。

THE POINT

三つの波は、同じ岸辺に打ち寄せます。—— 現場で、データが取れているか。

記録ツールから、データ基盤へ。

—— WMSはもう、「在庫を記録するもの」ではない。

YESTERDAY

従来のWMS観

A・ROLE

在庫を記録するツール

B・USER

現場担当者が使うもの

C・CHOICE

機能の多さで選ぶ

TODAY & TOMORROW

これからのWMS

A・ROLE

AIを動かすデータ基盤

B・USER

経営判断を支えるもの

C・CHOICE

構造で選ぶ

THE POINT

問うべきは「機能が多いか」ではなく、データ基盤として本当に機能するか。

//

**WMSが「データ基盤」になる時代。
その基盤を、誰が、どう作るのか。**

//

では、データ基盤として
「本当に機能する」条件とは。

01



現場が毎日使い続けること。

使われないシステムにデータは生まれない。

02



経営の単位で取れていること。

荷主別・工程別・時間別。経営が問う粒度で。

03



業務と可視化が
同じ思想であること。

バッチで繋いだ別世界では経営判断に間に合わない。

THE POINT

机上では簡単に語れる3つ。—— しかし、これまで誰も揃えられませんでした。

これまで誰が語ってきたか。 ——そして、なぜ届かなかったか。

#	WHO	STRENGTH	WHAT WAS MISSING
01	経営コンサルタント CONSULTANCY	経営の言葉で、課題を整理する力	毎日の現場で、データを取り続ける手
02	BI / 会計ベンダー BI / ACCOUNTING	数字を「見せる」設計の専門性	現場で「取れる」かどうかへの責任
03	物流システム会社 LOGISTICS SYSTEM VENDOR	現場の業務を回すシステムを作る技術	自社で現場を運営し続けてきた経験

THE POINT

みんな、片足だけで語ってきた。

正論は届かず、現場は変わらない。

これが、私たちなりの答えです。

—— 対等な、二つの顔。



FACE 01 · SYSTEM

01

物流現場のソフトウェアとデータ基盤開発

W3 **mimosa**を中核に、**900**社超の現場へ。
WMS／採算管理／人員配置／データ基盤を自社開発。

×



FACE 02 · OPERATION

02

3PLを運営する事業者

関東**3**拠点・関西**2**拠点。
Yellow Tailとして、自社で物流現場を運営。

THE POINT

この二つは別々ではなく、同じ会社の中で互いを鍛え合っています。—— **現場で使われたmimosaが、翌日には少し良くなっている。**

Yellow Tailで、 私たちが最初にぶつかった現実。

SITUATION

現場は、毎日きちんと回る。

入荷も、出荷も、検品も、止まらない。
ベテランの段取りが 現場を支える。

THE POINT

現場の人が悪いのではありません。—— 「取れる仕組み」が、なかっただけです。

BUT...

でも、何も、残らない。

誰が、何時間、どの荷主の作業を。
—— 紙とExcelと、個人の記憶のなかだけ。



—— 目指したのは、機能の多さではない。

現場が動けば、動くほど。 正しいデータが、自然に貯まる**基盤**。

01

● DESIGN PRINCIPLE

考えなくても、迷わない

Excelライクな画面と、ハンディが次の動きを指示する設計。

THE POINT

現場が動くこと自体が、データを生む。—— 「**入力する**」ではなく、「**動けば残る**」。

02

⋮ DESIGN PRINCIPLE

属人化を、構造で外す

最適な動線・荷姿をシステムが提示。
「あの人にしか分からない」を残さない。

03

▲ DESIGN PRINCIPLE

作業ログを、自動で残す

誰が・いつ・どの荷主のどの作業を。
入力ではなく、副産物として記録。

現場と経営の景色は、こう変わります。

BEFORE ・ 01

ブラックボックスの現場

B.

- 属人的な段取り。記憶と勘で回る。
- 紙とExcelに、点在する記録。
- 月末になって、ようやく集計。
- 儲かったかは、感覚でしか言えない。



AFTER ・ 02

データが流れる現場

A.

- システムが、次の動きを指示。
- すべての作業ログが、自動で残る。
- 日次で、荷主別の実態が見える。
- 経営が、数字で意思決定できる。

THE POINT

現場が変わるから、経営も変わる。—— 二つは、同じ動きの裏表です。

現場が動くだけで、データが貯まる。

—— 経営・AI・ロボティクスを支える「データ基盤」へ。

経営の判断も、AIの精度も、ロボットの自律稼働も。—— そのすべてが、「現場で何が取れているか」で決まります。



THE POINT

データ活用の成否は、現場でどれだけ継続的に集められるかで決まる。—— その中核にあるのが、mimosaです。

ここまでが、私たちからの答えです。

—— 冒頭の問いに、半分の答え。

TODAY'S QUESTION

「WMSが“データ基盤”になる時代。
その基盤を、誰が、どう作るのか。」

OUR HALF OF THE ANSWER

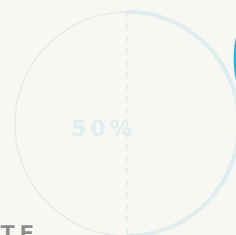
この20分で、お答えしたこと。

01 現場を最適化し、属人化を外す。

考えなくても動ける現場を、構造で作る。

02 正確なデータが、自然に貯まる基盤を作る。

動けば残る。「入力する」ではない。



BUT THE ANSWER IS NOT COMPLETE

—— これだけでは、まだ「経営の武器」にならない。

NEXT

この貯まったデータを、どう「経営の数字」に変えるのか。—— その答え合わせは、MonoLu石田さんから。

では、もう半分の答え。

この貯まったデータを、 経営の言葉に翻訳する。

—— ここから先は、**MonoLu 石田 樹 様**から。
一緒に作り上げてきた、もう半分の答え。

PART 1 · FROM

長谷川 諭 W3 mimosa

データを「貯める」側



PART 2 · TO

W3 Accounting 石田 樹 様

データを「使う」側 / MonoLu株式会社